

8 生体技工専攻で顎顔面補綴技工を学ぶ —臨床技工プロ講座から顎顔面補綴技工ゼミへのステップアップ—

○菊間玄太, 大倉清朗

明倫短期大学 歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 2年

keywords : 顎顔面補綴技工, 鼻腔エピテーゼ, マージン部, 色調調整

はじめに

私達は, 生体技工専攻の特色ある教育プログラムの一つである臨床技工プロ講座(以下プロ講座)を受講し, エピテーゼ製作の面白さを知り, 顎顔面補綴技工ゼミ(以下研究ゼミ)を選択した。そこで今回は, プロ講座と研究ゼミを通じて学んだことを報告する。

報告

生体技工専攻の1年次にプロ講座を受講し, 2年次に研究ゼミを履修することによって, それぞれ共通課題である鼻腔エピテーゼの製作からどのようにステップアップしたのかを自分たちなりに評価した。

プロ講座, 研究ゼミ共に自分の鼻の印象採得をお互いに行い, プロ講座ではその作業模型上において自由形態で製作し, 基本的な手技を理解した。研究ゼミでは自分の鼻を忠実に再現するように心掛け, マージン部と皮膚との適合性と厚さ, 着色操作を慎重に行い完成した。

プロ講座と研究ゼミで製作した鼻腔エピテーゼは, 後者の方が作業をよりていねいに時間をかけて行ったので完成度が高いと思われた。この技術において, マージン部の適合性と厚さや色調調整の理解を深めることができた。

まとめ

プロ講座と研究ゼミを通して顎顔面補綴物の製作法, 維持方法の長所と短所¹⁾について学んだ。さらにプロ講座と研究ゼミでは, その修復領域が一般歯科技工に比べて広範囲であり, 多くの作業工程は現在確立された歯科技工技術の応用で成り立っている¹⁾, ことがわかった。

歯科技工士は, 顎顔面補綴を必要とする患者さんの早期社会復帰とQOLの向上に大きく貢献する重要な職域であることが, 生体技工専攻の2年間で実感できた。

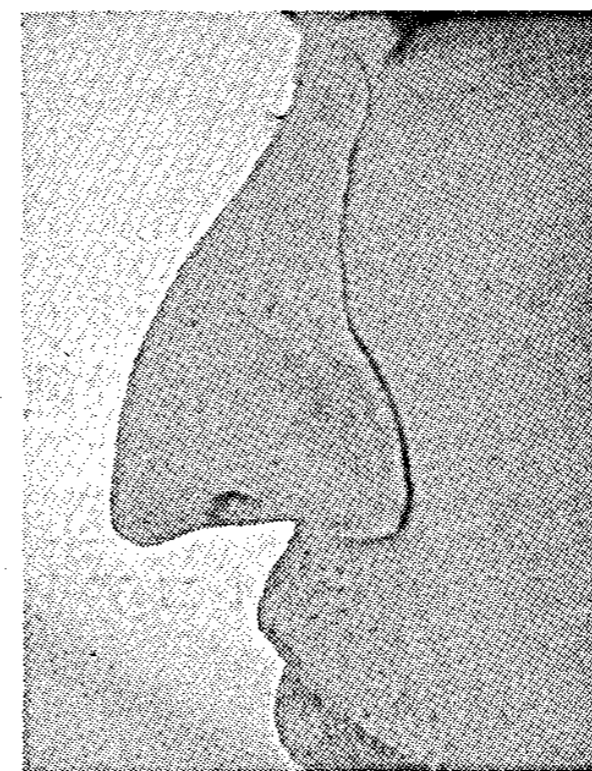


図1 自由形態の鼻腔エピテーゼ (プロ講座)

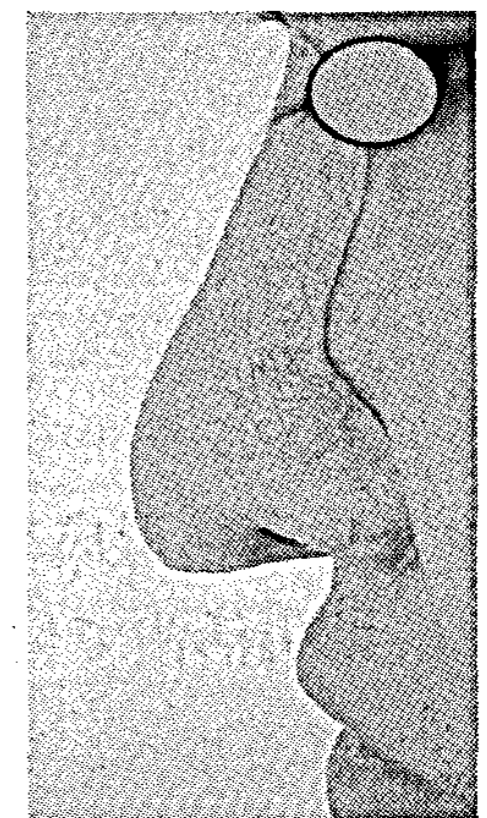


図2 自分の鼻を再現した鼻腔エピテーゼ (研究ゼミ)

参考文献

- 1) 常國剛史: 顎顔面・人体修復の技工. 歯科技工35: 764-767, 912-916, 2007

(指導教員: 野村章子, 佐々木聡)